

令和7年度 労働局長による「ベストプラクティス企業」訪問

～ 社会福祉法人敬友会の取組 ～

目的・要旨

厚生労働省では、毎年11月を「過労死等防止啓発月間」と定め、過重労働解消に向けた気運醸成のため、岡山労働局・各労働基準監督署において周知・啓発の取組などを実施しています。

岡山労働局では、この月間に併せて実施している「過重労働解消キャンペーン」の取組の一つとして、働きやすい職場づくりや長時間労働削減等に積極的に取り組んでいる「ベストプラクティス企業」を労働局長が訪問して意見交換を行い、こうした企業を広く地域に紹介して、他の企業においても参考にさせていただきたいとの趣旨で実施しました。

今年で10回目となるベストプラクティス企業訪問は、岡山労働局長（森實久美子）が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる社会福祉法人敬友会ケアハウスあおさぎを訪問しました。

訪問日 令和7年11月17日(月)
訪問事業所 社会福祉法人敬友会
ケアハウスあおさぎ
(所在地：岡山県備前市日生町日生801)



法人概要等

法人名	社会福祉法人敬友会
本社所在地	岡山市南区東畦768
代表者等	理事長 橋本 俊明 副理事長 橋本 健二 常務理事 山田 賢司
設立	平成6年3月 (平成10年10月 ケアハウスあおさぎ開設)
従業員数	587名(男性164名、女性423名) (うち、介護職275名(男性67名、女性208名) 外国人労働者42名(男性2名、女性40名)) ケアハウスあおさぎ 29名(男性10名、女性19名) (うち、介護職16名(男性7名、女性9名) 外国人労働者4名(いずれも女性))
事業内容	社会福祉・介護事業 岡山県内で26ヶ所の高齢者福祉施設を運営



主な取組内容

生産性向上の取組

ICT機器等の導入による間接業務(記録・申し送りなど)の削減

介護ソフト、入力端末等のICT機器やお掃除ロボットの導入により、ケア記録や申し送り等の間接業務の時間を削減し、残業時間の削減にもつながった。

記録業務 介護職員1人当たり平均 約30分 約13分
残業時間 介護職員の平均 3.3時間/月(R4) 1.6時間/月(R6)

人手不足で外国人労働者の受け入れも進める中、ICT機器の活用等により、業務の標準化、可視化、効率化が図られ、記録業務の削減等で外国人労働者も介護業務に専念することができ、人材確保や定着につながった。

上記取組などを推進することで、年次有給休暇の取得率が向上し、離職率も低下した。

年休 14日(R4) 16.5日(R6)
離職率 16.7%(H29~R2平均) 6.25%(R3~R6平均)



Q 生産性向上に取り組むようになった時期やきっかけは？

A 令和5年2月頃からです。
紙の記録では量が膨大となり、また、記録は事務室にしかないため職員間の入居者等の情報共有も非効率で、職員の負担も大きくなっていました。
さらに、人手不足の中、外国人労働者の受入れも必要となり、現場の見直しだけでは限界を感じていました。



入力端末
タブレットで選択し、項目もわかりやすい

介護記録システム

【生産性向上】ICX/DX導入



**業務管理
スケジュール**
業務の流れや量が一目でわかります



お掃除ロボット
テキパキ動き、きれいにします
人や物を感知して、衝突を回避します

Q 生産性向上に取り組んだ効果はいかがですか？

A 介護ソフトや入力端末等のICT機器やお掃除ロボットの導入によって、ケア記録や申し送り等の間接業務の時間が削減でき、残業時間も削減できました。それに伴って、入居者への食事援助等の時間を増やすことができ、入居者ケアの質向上にもつながっています。

また、ICT活用等により、職員間の情報共有が迅速に行え業務の効率化が図れたほか、業務量が可視化され業務の平準化にも役立っています。業務の流れもわかりやすく、日本人労働者はもちろん外国人労働者にも理解しやすいものとなっており、人材確保や定着にもつながっています。

Q ICT機器等の導入に当たって課題などはありますか？

A コスト負担などがありますが、使いやすい機器であることが重要でその選定には一定の時間を要しました。
ICT機器の導入には抵抗感がある職員もいましたので、段階的な導入と丁寧な説明を続け不安の解消に努めました。操作の上達にも差がありますので、個別指導や定期的な研修を重ね、外国人労働者にはふりがなをふったマニュアルも作成し活用しました。

Q 介護現場では腰痛になる方が多いと聞きますが？

A 介護職員は入居者を抱えたり持ち上げたりすることで腰痛になることが多く、離職の大きな原因にもなっています。そのため「持ち上げない介護・ノーリフトケア」に取り組んでいます。介護リフト、スライディングボードやグローブなどの機器等を使用して移乗介助を行っています。

入居者にとっても安全で身体負担や不安のないケアを提供することも念頭に行っています。



スライディンググローブ
職員は常に携帯し、いつでも使用できます

社会福祉法人敬友会は岡山労働局が運営の労災防止に取り組む「岡山県+SAFE協議会（介護・障害福祉）」の構成員です

Q 今後の抱負や展望をお聞かせください。

A 取り組んできた内容をより良いものとし、地域や県内の介護事業者の方々にも広めていきたいと思います。



写真右より、大倉本部総務部長、安田介護事業部長、森實岡山労働局長、岸本監督課長

「令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰優良賞」を受賞されました（同賞の受賞は中国地方では初）



安田次長と福岡厚生労働大臣(当時)



～ 令和7年8月27日 首相官邸にて（厚生労働省HPから）～